

千代田で地域連携し、学び合う防災

30年以内に、マグニチュード7クラスの首都直下型地震が70%の確率で発生するといわれています。そこで、そのための取組として、首都直下型地震やゲリラ豪雨などの予測困難な大規模自然災害への防災・減災のための取り組みが注目されています。

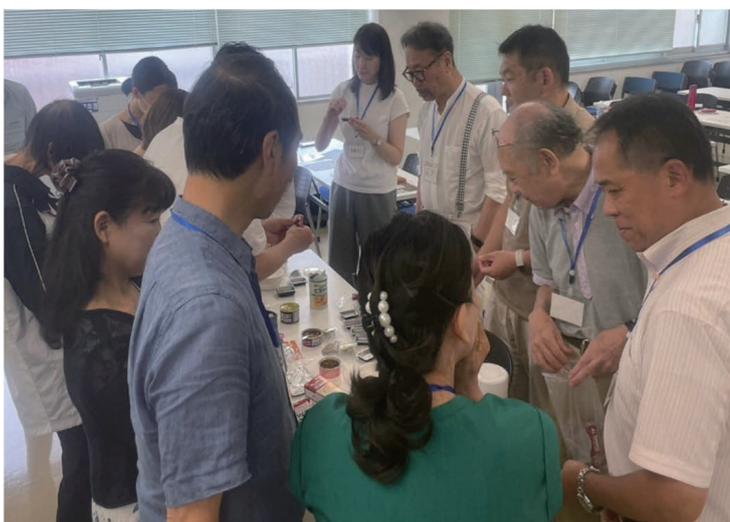
わが家の食料備蓄、だいじょうぶ？みんなで防災食を試食

2023年8月26日(土)、人間栄養学部 酒井治子教授が講師を務め、千代田区社会福祉協議会が後援する「災害時寄り添いサポーターの会」のセミナーを開催しました。

今回は、千代田区の「災害時寄り添いサポーターの会」のメンバーと共に、学生も一緒に、発災からサバイバル期間の「食」について栄養学の観点から学びあいました。

区民の方が「実際に備蓄品を持ち寄って食べてみよう」という試みを行っています。災害に備え、防災に関心のある人同士が知恵を出し合い、学び合う機会となりました。

学生も、千代田区で暮らしている人、働く人とふれあい、千代田区という地域を身近に感じたようです。防災という観点から千代田区に住み、働き、学ぶ人たちが地域で助け合い、支えあえる地域コミュニティをつくることに、大学が少しでも貢献できることを願い、活動を始めています。



地域連携を視野に入れた帰宅困難者支援施設運営ゲーム開発

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（千代田区キャンパスコンソ）の5大学・2短期大学を含む区内の大学は、千代田区と『大規模災害時における協力体制に関する基本協定』を締結しています。各大学では、区民や一般の帰宅困難者の受け入れ、及び情報・食糧・飲料水などの提供などの使命を少なからず担うことが期待されています。

千代田区キャンパスコンソの共同研究（研究代表者 酒井治子）として、令和3年度から「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究」を開始しています。令和4年度は「（2）教職員及び学生を対象とした帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発」、令和5年度は「（3）地域連携を視野に入れた帰宅困難者支援施設運営ゲーム開発」を進めてきています。本学では、体育館を避難所とした「東京家政学院版 帰宅困難者支援施設運営ゲーム」を作成しています。

令和6年2月24日(土)、千代田三番町キャンパスにて帰宅困難者支援施設運営体験ゲームのワークショップを開催し、人間栄養学科の学生5名と、教職員10名、地域の方々14名が参加しました。第1部 講演テーマ「首都直下型地震への備えと帰宅困難者対策～千代田区内大学20年の取り組みを踏まえて～」と題して、宮崎賢哉氏（災害支援・防災教育コーディネーター）から講和をいただきました。

第2部では、本学の帰宅困難者支援施設である体育館、および、備蓄倉庫の見学を行った後、発災時において、帰宅困難者支援施設の開設に伴って、どのような安全・衛生管理、感染症対策、備蓄品、通信手段などの確保、情報提供体制など、施設運営に関する情報共有が必要なのか、臨場感を伴った体験ができました。

「備蓄品はどこに収納されているのか」「どのような体制を作っていくべきか」「本学だけでなく、他の大学や地域のどのような場と連携することが必要なのか」等、学生や教職員の視点と、さらには、千代田区に在住、または、勤務する帰宅困難者の視点の両面で、その対策を検討する必要性を痛感しました。

こうした防災・減災教育の場を地域の大学と連携しながら、学生ボランティアの人材育成につなげていきたいと思っています。



プロジェクト概要

- テーマ
千代田で地域連携し学び合う防災
- パートナー
千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（千代田区キャンパスコンソ）
- 担当教員
人間栄養学部 人間栄養学科
酒井 治子
- 実施期間
令和5年4月～令和6年3月